

シネラ・ニュース  
May.2001 No.58

特 集

# 中山節夫監督特集

特 集

# 林権澤監督特集

イム・グォンテク

5



たとえ闇に覆われても、めいっぱい輝こうとするアンニョに心打たれる。  
とても悲しい作品ですが、感じるものは大きいと思います。

『シバジ』 イラスト&文:山下良平

16日(水)14:00  
20日(日)15:00



## あつい壁

1969年/35ミリ  
モノクロ/95分  
出演:多々良純

昭和28年、熊本市の小学校に勤務する女教師岡本初江のクラスに太田信次という少年がいた。彼の父親は突然ハンセン氏病の診断を下され、療養所に収容される。信次と兄の信夫は同様の子供を預かる施設に入れられ、母は料亭で住み込みの仕事を始める。本作は熊本で実際に起きた事件を基に、ハンセン氏病への偏見と差別を告発する目的で製作された映画である。中山節夫監督の長編劇映画デビュー作。

17日(木)14:00  
23日(水)14:00



1977年/35ミリ  
カラー/97分

熊本県芦北郡にある芦北学園は肉体のあるいは精神的なハンディを持った心身障害児の施設で、この映画は芦北学園の10周年記念行事のひとつとして製作されたドキュメンタリーである。登場するのは芦北学園と学園に隣接する県立の芦北養護学校の子供達で、個性と感情豊かな姿が優しく、そして詩情を持って描かれている。

16日(水)19:00  
26日(土)11:00



1980年/35ミリ  
カラー/105分  
出演:中村嘉葎雄

中学3年生の根本英雄は、暴力事件を起したため、平川中学に転入させられてきた。クラス担任の木村先生は、受験を控えた生徒達に、根本を立ち直らせるためにクラス全員で取り組むことを呼びかける。原作は東京都の中学校の教師によるもので、彼の非行克服の実践を記録しセスラーとなつたもの。当時は校内暴力が社会問題となっており、生徒に体当たりで挑む教師役を中村嘉葎雄が熱演する感動作である。

17日(木)19:00  
27日(日)11:00



1981年/35ミリ  
カラー/100分

天草地方の片隅にある小さな分校を舞台としたドキュメンタリー映画。この分校には16人の小学生と、子供達を教える男先生と女先生がいる。この映画は2人の先生と子供達の交流や、先生が工夫しながら授業を行う姿を2年の歳月をかけて記録していくものだ。輝くような太陽と、学校の目の前にある海と美しい自然、子供達のはじける笑顔と成長する姿がこの映画のすべてである。

## 海と太陽と子どもたち

## 風のあるペジお

## 原野の子ら

60年代より一貫して学校や教育の問題に取り組んできた中山節夫監督の代表作の上映

会期:16日(水)~27日(日)  
※休館日・休映日を除く

観覧料:500円(大人)  
400円(大学生・高校生)  
300円(中学生・小学生)

※定員制、各回入替制。  
※チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。  
※福岡市在住の障害者の方は無料、福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の呈示が必要です。)

### 特別講演

## 「映画製作で出会った子供たちから学んだこと」

講師:中山節夫(映画監督)  
19日(土)13:30~14:50

※開場は開演の30分前。入場は有料制で、当日の「原野の子ら」の観覧料に含まれます。



中山節夫プロフィール

1937年熊本県生まれ。60年多摩美術大学付属多摩芸術学院映画科を卒業後、日活撮影所に勤務。2年後フリーとなり、児童映画、独立映画の製作に携わる。69年「あつい壁」で監督デビュー。「兎の眼」(75年)「ブリキの勲章」(80年)等の劇映画や「海と太陽と子どもたち」(81年)等のドキュメンタリー作品を監督。原野の子ら(97年)では98年シカゴ国際児童映画祭で最優秀作品賞を受賞。中山監督の多くの作品は監督自らが立ち上げた中山映画株式会社による製作であり、上映も自主配給や市民グループによるものが多いが、教育問題を扱った誠実な映画作りには定評がある。

18日(金)14:00  
24日(木)19:00  
27日(日)15:00



1986年/35ミリ  
カラー/105分  
出演:星野知子

松山優樹は小学校5年生で動物好きな優しい少年だが、チョットだらしない風体のためクラスでは仲間はずれぎみだった。クラスはサッカー大会を控えており、のろまな優樹はいじめられるようになる。そして優樹の上に何人もの子供達が乗りかかり、入院してしまう事件がおきる。この映画はいじめられる子供と、いじめる子供の双方を描きながら、命の尊さを描きだしていく感動作である。

20日(日)11:00  
23日(水)19:00  
25日(金)14:00



1994年/35ミリ  
カラー/101分  
出演:渡辺栄

太と圭二は小学校5年生のクラスメート。太は私立中学受験のため好きなサッカーを止め塾に通い出す。圭二は母が離婚したため、放課後は一人コンビニやゲームセンターで過ごす。ある日突然、太と圭二はクラスで暴力を振るう始める。この映画は川崎市の小学校教師の実践記録を映画化したもので、親や大人達の身勝手さの中で、子供達が悩み追いつめられていく様子を描き、教育とは何かを問い合わせている。

18日(金)19:00  
26日(土)15:00



1987年/35ミリ  
カラー/101分  
出演:江藤潤

音楽のバンドをやっている五郎はある日突然妻が病気で入院してしまい、子供二人の世話や家事の一切をやらなければならなくなる。それまで家のことは妻に任せっきりだった五郎は、子供達と家事を分担し、仕事と家事の両立を目指し奮闘を始めるのだが…。本作は「帰って来たヨッパライ」「風」等のヒット曲で知られる、はしたのりひこの体験記「お父さんゴハンまーだ」を映画化したもので、家族のあり方を問いかげ反響を呼び起した作品である。

19日(土)15:00  
24日(木)14:00  
25日(金)19:00



1997年/35ミリ  
カラー/127分  
出演:島飼美帆

教育の在り方に悩んでいた淑子は熊本市内の小学校から、阿蘇の分校に赴任し、1~2年生5人の担任となる。淑子はさまざまな家庭環境の子供達と共に過ごすうちに、最初は馴染めなかつた村人たちに次第に受け入れられていく。そしてこの分校で教師を続ける決心をする。一年に渡る淑子と子供達との交流を描いた作品であり、阿蘇の自然を背景にそこで暮らす人々の生活や現実が描き込まれた作品である。

## 中山節夫監督特集



## 「ビタミンM」

先日、ワイドショーを見ていると、芸能レポーターのF氏がこの20年間、全く年取ったように見えないとことが話題に上り、その理由として、プライベートで映画を数多く観て、研究をしているから若いんですよ、とのコメントがなされていた。

そう言わば、映画関係者を眺めてみると、高齢になっても年齢を感じさせない若々しい人が多いのには驚かされる。映画解説で有名な淀川長治氏は89歳で亡くなられる直前まで、テレビの映画解説の収録をされていた。映画を愛してやまないその笑顔には、最後まで少年のような輝きがあったように思われる。また、映画監督に目を向けても、今年始めのキネ旬に「日本映画は老人に支えられている?」との項があつたが、昨年新作を発表した監督で、「三文役者」でアジアフォーカス・福岡映画祭にも来られた新藤兼人監督は88歳、「どちら平太」の市川崑監督は85歳、「バトル・ロワイアル」の深作欣二監督は70歳になるとのこと。映画を撮るには、並々ならぬ気力、体力が必要と思われるが、そのパワーは映画を愛する気持ちから沸いてくるのだろうか。



新藤兼人監督  
(2000年アジアフォーカスにて)

こうして、実例をみていくと、映画と健康・若さには何らかの因果関係があるに違いない。きっと、映画を観ると、ハートが刺激されて健康のための分泌物が出てくるのではないだろうか。中高年になった方は、若かりし日々に胸ときめかした映画をもう一度観ることで、心も体も昔に戻っていくのかもしれない。

最新のSFXを駆使した映画は、日常のストレスを吹っ飛ばして、メンタルヘルスに効果的なのだろう。

近年、食品やサプリメントが健康に与える効能を検証するテレビ番組が巷で話題になっているが、沢山あります。いつか何が良いのか混乱してしまう。このあたりで目先を変えて、映画が健康に与える効能について研究してみる企画はいかがだろうか。きっと、新たな発見があるかもしれない。もしかすると、本当に新たな分泌物が

見つかるかもしれない。

シネラでは、科学的な検証はできないが、映画が健康に与える効能を「ビタミンM(Movie)」と命名したい。是非、皆様方もシネラで心の栄養「ビタミンM」を補給して、いつまでも、心も体も若々しくいていただきたいものである。

映像資料課 宮田英生

## INFORMATION お知らせ

### シネラNEWS送付のご案内

定期購読をご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしております。購読を希望される方は、平成13年6月号～平成14年3月号までの郵便切手(90円×10ヶ月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。

宛先:〒814-0001福岡市早良区百道浜3-7-1  
福岡市総合図書館 映像資料課

### ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影されたビデオ(Hi8)や各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄、デジタルビデオの編集は不可)

※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

### 次号予告

※変更の場合もあります。あらかじめご了承ください。

6月6日(水)～10日(日)

### 特別企画 イメージフォーラム・フェスティバル

日本最大の実験映画のコンペティションであるイメージフォーラム・フェスティバル。一般公募入選作品、映像作家の招待作品など実験映像の最先端を紹介。

6月13日(水)～24日(日)

### 特別企画 地中海映画祭

レバノンからシリア等の西アジアと、チュニジア、モロッコ等北アフリカの地中海を囲む国々の映画を紹介。「ラグレットの夏」(チュニジア)「その長き道のり」(ギリシャ)「魂のそよかぜ」(シリア)「西ペイント」(レバノン)「他者」(エジプト)「砂漠の方舟」(アルジェリア)「女房の夫を探して」(モロッコ)等15作品を上映。



「ラグレットの夏」



「魂のそよかぜ」

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>

5月

上映スケジュール

1 火	休館日
2 水	休映日
3 木	11:00 風の丘を越えて 15:00 祝祭
4 金	11:00 望夫石(マンブソク) 15:00 族譜
5 土	11:00 キルソドム 15:00 風の丘を越えて
6 日	11:00 祝祭 15:00 シバジ
7 月	休館日
8 火	休映日
9 水	14:00 族譜 19:00 祝祭
10 木	14:00 曼陀羅 19:00 キルソドム
11 金	14:00 望夫石(マンブソク) 19:00 開闢
12 土	11:00 シバジ 15:00 キルソドム
13 日	11:00 曼陀羅 15:00 開闢
14 月	休館日
15 火	休映日
16 水	14:00 あつい壁 19:00 プリキの勲章
17 木	14:00 いまできること… 19:00 海と太陽と子どもたち
18 金	14:00 やがて…春 19:00 風のあるべじょ
19 土	13:30 中山節夫講演会 15:00 原野の子ら
20 日	11:00 先生あした晴れるかな 15:00 あつい壁
21 月	休館日
22 火	休映日
23 水	14:00 いまできること… 19:00 先生あした晴れるかな
24 木	14:00 原野の子ら 19:00 やがて…春
25 金	14:00 先生あした晴れるかな 19:00 原野の子ら
26 土	11:00 プリキの勲章 15:00 風のあるべじょ
27 日	11:00 海と太陽と子どもたち 15:00 やがて…春
28 月	休館日
29 火	休映日
30 水	休映日
31 木	月末休館日

マリゾン

百道ランプ

福岡タワー

福岡ドーム

博物館

遊歩道

福岡市総合図書館

中国総領事館

福岡市博物館

韓国総領事館

博物館南口バス停

千代今宿線(旧202号線)

地下鉄藤崎駅

地下鉄西新駅

交通アクセス: 当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス: 天神～都市高速経由～福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約20分)

博多駅～都市高速経由～福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約25分)

福岡タワー南口バス停から徒歩3分

いずれも、昼間は10～15分間隔で運行されていますので大変便利です。  
お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

### 編集雑記

今月は2人の監督特集。両監督共に、60年代にデビューし今まで第一線で作品を振り続けてきた監督で、昨年のアジアフォーカス・福岡映画祭にも新作を持って来福している。今回の特集では各年代の代表作をラインナップしており、両監督のこれまでの足跡を検証していただきたい。(H.M.)